

令和7年度 福井県立丸岡高等学校定時制 学校関係者評価書

(問) (1) 学校評価書の成果と課題が適切かどうか。 (2) 成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。 (3) その他
(意見を聞いた方) 丸岡高校定時制教育振興会長、PTA会長、同窓会会長、学校評価委員
(意見欄) ○教育課程・学習支援 (1) 教育課程・学習支援に関して、学校として取り組むべき課題に真摯に対応している。 (2) 時間を守って行動できることは、社会に出て必要なことなので。引き続き指導をお願いしたい。 (3) 学ぶ意義や努力の価値を、学校だけでなく家庭や地域の大人が自らの言葉と姿勢で示していくことが必要。 (4) ICTを活用して、生徒の個に応じた教育、学びなおしをお願いしたい。
○生徒支援 (1) 生徒、教職員、保護者とも、交通規則遵守や遅刻に対する意識が高いのは、指導の成果が出ている。 (2) 生徒支援は一定の成果が出ている。しかし、保護者や教職員と、生徒の受け止めとの乖離が見られる。指導法の問題ではなく、社会のルールや他者への配慮を、学校・家庭・地域の大人自身が理解して姿勢で示していく必要がある。 (3) 令和8年度より、ヘルメット着用が義務付けられるので、生徒の理解を伴いながら交通規則遵守に取り組むをお願いしたい。
○進路支援 (1) 進路支援に関して、制度的な枠組みや、機会は提供されている。 (2) 生徒の進路実現が出来るように、生徒、教職員、保護者、企業間の連携、協力体制強化に期待します。 (3) 進路支援の際に、生徒に携わる大人も一緒に、現在の社会や産業構造について学んでほしい。
○教育相談 (1) 「校内で心の悩みや問題を相談できる」の指標が下がっているの、教職員が生徒とコミュニケーションを密にして、受け止めてあげてほしい。 (2) 生徒が気軽に相談できる環境づくりは、学校でも家庭でも必要だと感じる。 (3) 質問項目がプライベートな「私の悩み」ではなく「校内や進路の悩み」に変更した方が、支援の成果が出るのではないかと。
○環境衛生 (1) 環境衛生や生活習慣に関することは、一定の定着が見られる。 (2) 清潔さや習慣は、指導ではなく、生徒に示す日々の大人の姿勢が必要である。学校でも、家庭でも大人が生徒と共に清潔さや生活習慣を示していきたい。
○読書支援 (1) 読書支援は、学校内で工夫がなされていて、生徒の取り組みも一定の定着が見られる。 (2) 学校でも家庭でも、大人も生徒も読書の習慣を持てるようにして、人生を広げていく材料にしてほしい。
○その他 (1) 全ての項目に関して、適切に取り組まれ一定の成果が出ている。 (2) 家庭・地域・学校の生徒と大人が、同じ目標を共有して取り組むと良い。
○学校関係者評価を踏まえた今後について（学校として次年度にどう対応していくか） 次年度の本校の教育の重点目標や具体的取組を設定するにあたっては、今年度の自己評価と改善方策について学校関係者よりいただいたご意見を真摯に受け止め、次年度の教育活動に反映したい。次年度は、次のことに重点的に取り組んでいきたい。 (1) 基礎・基本の定着を図り、主体的・対話的で深い学びを実現するために、ICT機器を活用した教材や授業の工夫を行い、タブレットを効果的に活用して生徒主体の分かりやすい授業を目指す。 (2) 交通安全の遵守を、家庭・学校で連携して取り組み、ヘルメットの着用義務化に合わせ、生命の安全のための取組をしていく。 (3) 進路支援は、現在の進路行事を継続しながら、進路希望調査等で生徒と保護者が共に考える機会を増やして、生徒の個性を生かした進路選択、進路実現に向けた支援を行っていく。 (4) 教職員や保護者が、生徒との関わりを通して、生徒の抱える問題の早期発見に努め、家庭、関係機関、SC、SSWとの連携を強化して適切に問題解決を図る。 (5) 図書館の積極的な活用や、ハートフルタイムを生かし、学校・家庭での読書習慣に努める。 (6) 環境美化や整頓ができるように学校や家庭で、教職員や保護者が生徒の意識向上づくりを目指していく。 (7) 本校の課題を学校と保護者、関係機関等が共通理解し、「チーム学校」で教育活動の成果を上げていく。